

資料から読み取った事柄を根拠として、自らの考えを表現し合い考えを深めることができる生徒の育成
 —三角ロジック（トゥールミンモデル）の活用を通して—

特別研修員 社会 小幡 吉則（中学校教諭）

目指す生徒像

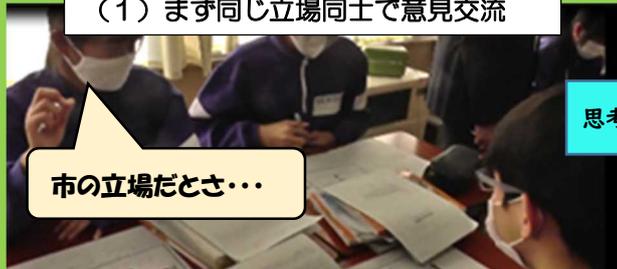
資料から読み取った事柄を根拠として、自らの考えを表現し合い、考えを深めることができる生徒

手立て2 立場を与え、その立場から考えた意見を根拠立てて説明し合う場を設定する。

授業実践
 単元「地方自治と私たち」

めあて：自分たちの住む町への提言について、違う立場から意見を出し合い、よりよい提言にしよう

(1) まず同じ立場同士で意見交流



市の立場だとさ...

思考の深まり

(2) 次に、違う立場の生徒と意見交流

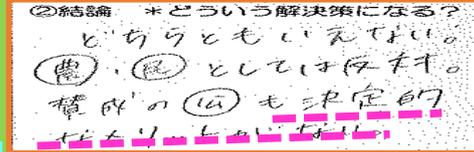


農家では...

市の立場だと...

住民のグループではね...

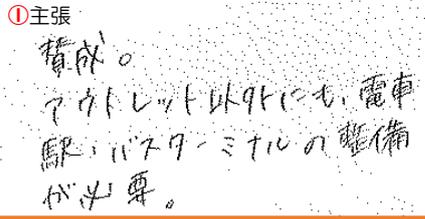
三角ロジックでまとめた意見を用いて根拠をもって発表し合い、意見を深める。



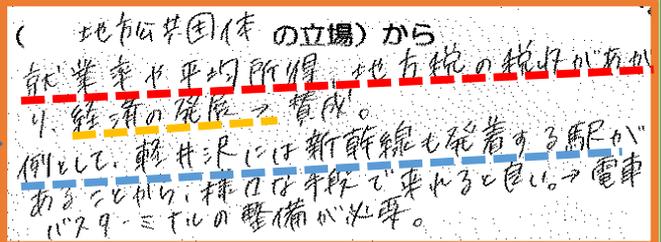
他グループの意見を受けて意見が変容した。

手立て1 三角ロジックを活用して、読み取った事柄を根拠に、自らの考えをまとめる場を設定する。

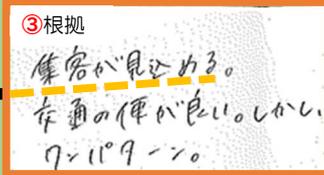
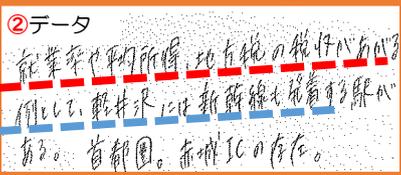
前



後



思考の深まり



三角ロジックを使うことでより具体的な意見になりました。

三角ロジックとは...

①主張を考え、②主張に関するデータを資料から探し、③データを基に主張の根拠を考えて、それらを踏まえて自分の意見をまとめる方法。発表の際には、ここでまとめた意見を用いて根拠立てた発表につなげていく。

生徒の実態

- ・資料から読み取った情報を関連付けて考えたり、類推して考えたりすることが苦手である。
- ・根拠に基づいた意見を言える生徒が少ない。

成果

三角ロジックを使いデータ、根拠をまとめることで、自分の考えが何を基にして考えられたものかを視覚的に捉えることができ、具体的に根拠を伴った主張としてまとめることができた。

課題

全ての生徒に同じ資料を提示し、立場を変えて資料を読ませたが、意見の深まりが見られない生徒もいた。それぞれの立場に合わせて、別々の資料の提示が必要である。